

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071600979		
法人名	株式会社 吉兆		
事業所名	グループホーム ふきのとう		
所在地	福岡県久留米市荒木町白口2343-1		
自己評価作成日	令和1年 12月10日	評価結果確定日	令和 2年1月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	令和 2年1月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は住宅街にあり 事業者が近隣に住居し 長年にわたり地域と関わり また役員やボランティア等で貢献して 地域とのつながりも深く 緊急時には支援して頂ける協力的体制がある
ご利用者様が 地域に生活者の一人として 暮らしていけるよう心掛けている 地域での夏祭りや敬老会などに 職員と一緒に参加し楽しんだり 近隣中学校の生徒の職場体験学習を例年受け入れたりしている また資格を持った職員等がフットケアセラピーを提供して ご利用者から 大変喜ばれている 利用者様に寄り添い 思いや希望などの傾聴に努めているが 介護職員不足により 実現がなかなか難しい状況もある また職員はフットケアセラピーやパソコンなどの研修や勉強が出来る仕組みがあり 介護の現場で生かしている 開設当初よりの理念を地域と共に その人らしさを大切にして日々のケアの向上に努めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設以来の理念を玄関やホール、共用空間に掲示し、定期的な全体会議では、外出を支援したい、〇〇したい等、職員の篤い思いや意見を話し合い、会議内容や気づきをチャットで共有している。終末期から回復した入居者には状況に応じたケアが展開しているが、入居者や家族の意向を確認しながら、1名の方の自然な看取りを支援している。毎日家族が交代で傍に付き添い、24時間オンコール対応可能な医師や訪問看護と連携した看取りに、通夜の席で家族から労いや謝辞を受けている。日頃からチームケアに努め、系列法人主催等の研修会参加や資格取得を推奨し、非常事態に備え当直を設けている。運営推進会議は 家族や多様な地域代表者等の参加で定期的開催され、今月の介護フェスタには法人として参加するなど、理念に謳った入居者の生きる喜びを支援するケアが期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **1F/グループホームふきのとう**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やホール内に掲示している 経験の長い職員は 常日頃から唱和するように促し実践に努めているが 介護職員不足の為になかなか新しい職員が定着せず 厳しい現状がある	開設以来の理念を玄関やホール、共用空間に掲示している。人の役に立ちたいと入職した職員は、人としての関わりを話すなど、日頃の関わりを通じて理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(夏祭りや敬老会など)に参加して楽しんでいる 地域包括支援センターの行事に参加協力したり また事業所自体の敬老会に地域や家族、ボランティアの方々に呼びかけたくさん参加して頂いて 一緒に楽しい時間を過ごし 交流している	地区自治会参加が継続し、公民館の敬老会に参加したり、ホーム主催の敬老会に地域の方々の参加もあり、地域と交流する機会となっている。3ヶ所の中学校の職場体験や高校の介護実習生も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学校の学生など 当ホームでの職場体験実習等を通じて 認知症の方への理解や支援方法について啓蒙に努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の民生委員や自治会役員や家族、市役所、地域包括支援センターの方々に 利用者様関連の状況報告をし 質疑応答または意見を頂いて ケアサービスの改善や向上に生かしている	家族や多様な地域代表者等の参加で定期的に開催され、会議録を玄関に公表している。会議では、研修報告だけでなくヒヤリハットや事故について詳細に報告し、11月は市担当者からインフルエンザなどの感染予防の話があった。	多様なサービスを展開している法人系列事業所と合同で運営推進会議が開催されているため、法人やホーム便りの発行、運営推進会議の案内や報告の掲載で、さらに実りある会議を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	本年度は実地指導を受け そのために業務内容の点検見直しを含め 書類整備をして書類提出 また改善点など市町村担当者との協議や相談し取り組んだ また 日常生活の中で 事故報告書など説明をして提出している 運営推進会議などにも参加して頂いて入居者状況報告等について意見を頂いている	今回の実地指導は、担当者や情報や意見交換しながら書面を整備するなど、日頃の運営を見直す好機となっている。今年度も地域包括支援センター主催の介護フェスタに、法人として参加予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員や関係者と話し合い 玄関のカギを開錠とした 医療面や高度な認知の為 やむえない方については 家族の同意の上 柵等の設置について実施している	毎月の全体会議に身体拘束に関する研修や話し合いを盛り込み、適正化に取り組んでいる。ベットからの転倒を予防するために、家族の了解を得て一時的に4本のベット柵を使用している。昨年離園して職務質問を受けた入居者もあるが、現在は落ち着いた生活を送っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法などの研修を受け持ち帰り 法人内などで報告や勉強会を実施している		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットや資料等を玄関などに設置している 社会福祉協議会の方との情報の共有で連絡をしている 職員も社内研修や勉強会で学ぶ機会を持っている	入居前から日常生活自立支援事業を活用している入居者があり、毎月訪問する生活支援員に暮らしぶりを報告している。事業や制度のパンフレットは整備しているが、新規の活用はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者や事業者が 本人と家族様との契約や解約時などに わかりやすく説明し 質問を受けたりして 理解を頂いた上で 契約などを交わしている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護保険更新時やケアプラン見直し等にはご利用者に傾聴に努めて また家族様に面会や電話連絡にて 報告や要望などを確認して ケアに生かしている	家族の来所時や電話で、日頃の状況を報告し、意見の表出を促している。家族から相談を受け、大きめパットの使用や日中のトイレ誘導を話し合い、経済的負担の軽減に努めている。家族の意見等はチャットで共有している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やチャットにて 意見を述べたり 管理者会議などの確認が出来る体制がある	月1回の全体会議では、外出を支援したい、〇〇したい等、職員の篤い思いや意見が出されている。年1回運営者による個別面談もあり、日頃から率直な意見を出せる関係づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績は認め 給与水準等は色々な諸手当等を増やして 決定している		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や国籍、年齢を問わず 採用している 認知症、高齢者、介護に対する考え方等により決定している	20代～60代の男女の職員が就労している。就労支援制度の活用や各ユニット毎にリーダーを置きチームケアに取り組み、介護支援専門員が職員の話聞きストレス解消に努めるなど、信頼できる職員が多いと入職2か月の職員は話している。新人研修は管理者やリーダーが行い、系列法人主催や外部の研修の参加、資格取得を推奨し、非常事態に備え当直を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権啓発指導セミナーを受講し、利用者様や職員にもわかりやすく、人権尊重の為の人権教育に取り組んでいる	県主催の人権啓発指導セミナーを受講した運営者が、伝達研修を実施している。運営推進会議でセクハラについて発表し、職員、入居者双方の人権研修の場となっている。	
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で介護や介護以外のパソコンやフットケアなどの資格や研修が受けられる体制がある		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他事業所の行事や運営推進会議に参加して良いところを参考にしたり 取り入れたり施設の運営に生かしている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の相談の段階で ご自宅や関係者宅へ訪問したり ホームへ見学に来て頂いたりして 関わりを持つ事で不安の軽減に努めている また入所時 傾聴に努めて 本人様の希望や不安点を確認している		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の相談や入所時には ご家族様からのご利用者に対しての要望等を傾聴し 確認して より良いケアが出来るよう努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状況や状態を把握し 何か出来るか どう支援すれば的確に現状に合うか努める		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が出来る事は お願いして また見守りながら 出来ないことは一緒にして暮らしを共にする また 利用者様から教えて頂けることも大切にして支えあう関係を作る		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一方通行にならないように注意をして 何かある時は その都度に 家族に連絡や相談をして 一緒に支えあう関係づくりをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人が 面会に来たり会いに行ったり また好みの美容室や食事処等に行けるように 外出支援が家族等の協力で実施できている 電話などの利用支援で 関係が継続できるように配慮している	調査当日も家族と一緒に受診や外食をする入居者があった。家族の誕生日に電話できるように支援したり、地区公民館やホームでの敬老会では家族や地域の方々などと交流し、馴染みの人や場の関係継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人や困難な関係を把握して 気持ちよく生活できるように配慮している また レクリエーションや行事など 声かけ促して 交流の場を提供している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時には 家族様からのねぎらいや感謝の言葉を頂いている また他に相談がある時はどうぞ等 声かけしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まず寄り添い 利用者が 要望や意見を出しやすい雰囲気づくりをしている 訴えが少ない方に関しては日頃の様子やご家族様からの聞き取りにて 気持ちを察して検討している	認知症の理解をするには、まずその人を人として関わるのが大事だと小さな気づきもチャットで共有している。夫々の入居者が笑顔になる場面などを通じて、気持ちを察することも多い。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に 利用者様やご家族様から ヒヤリングして生活歴や環境、趣味や介護サービス内容等を記入して頂き確認し把握に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各個人の一日の過ごし方や特変なども経過記録に記載、またはチャットにて確認や訪問診療、訪問歯科、薬剤師から服薬指導等も個別に記載し 職員全体で情報共有している		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回の全体会議や その都度にケア会議を開催 参加出来ない職員は 事前に担当者に口頭で ケアに関しての意見や改善点を伝えたり チャットにて連絡したりしている 家族は面会や電話にて意向等の確認 その上で 計画作成担当者が介護計画作成している	担当職員の気づき、本人や家族の意向を話し合い、介護計画の作成や見直しをしている。終末期を宣告されたが回復した入居者もあり、転倒防止に家族の同意を得てベットの柵をするなど、状況に応じたケアが展開している。	介護度が重い入居者の転倒や誤嚥等のリスクを家族と共有し、現状に即した介護計画の作成や見直しを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの状態や 訪問診療などの状況が分かるように個別記録やチャットを利用して 職員間で共有できる仕組みがある		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	手作りのおやつで美味しく楽しんで頂いている また フットケアセラピー施術で癒しの時間を提供し 気持ちが良いと利用者様が喜ばれている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や家族または地域以外の方により 踊りやカラオケなどボランティアを受け入れて利用者様と職員も一緒に 楽しい時間を過ごしている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望がある場合は 優先している 希望がない時は 当事業所の関連のある訪問診療の病院等の情報提供をしている	家族が同行してかかりつけ医を受診する入居者もあるが、複数の連携医療機関の訪問診療を受ける入居者が多く、中にはチャットで医療情報を提供される医師もある。系列の訪問看護と連携し、適切な医療受診を支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の日頃の状態や異常時には 主治医のもとに 訪問診療の看護師に報告や相談をしたり 法人内の看護師に連絡したりと医療連携により相談やアドバイスを受ける体制がある		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前のADL等や注意点などをお知らせしたり 入院中の経過など報告を受けたりと相互に連絡を取り合っている また退院に向けてのカンファレンスに参加して 情報共有や課題など話し合い 退院後の生活に生かせるようにしている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医等の指示や相談のもとに 入所時や入退院時に 本人や家族、職員等と 重度化や終末期ケアについての話し合いをしたり 情報の共有をして その都度の変化進行に関して 連携を図って取り組んでいる	入居者や家族の意向を確認しながら、1名の入居者の自然な看取りを支援している。毎日家族が交代で傍に付き添い、24時間オンコール対応可能な医師や訪問看護と連携した看取りに、通夜の席で家族から労いや謝辞を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や緊急時マニュアルを作成して 職員の目の届くところに設置している		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練マニュアルを作成して掲示している また避難訓練等 実施したり 消防より指導や研修等を職員が受けている	消防署から通報システム等の定期点検を受け、12月には水消火器を使用した避難訓練を実施している。地元出身でホーム隣に居住している運営者が、災害時は近隣の50軒に協力をお願いしている。食料品などを備蓄している。	昨今の異常気象から、備蓄台帳の整備や入居者に関する持ち出し書面の検討を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を持って声かけし 更衣や排泄時には見えないように扉を閉める 失禁したときなども本人のプライドを傷つけないように 声かけに注意をしたり配慮している	入居者は氏名を呼称しているが、職員を孫と間違える入居者もあり家族から、「じいちゃん」と呼んでほしいとの希望もある。調査時、食後のお盆拭きをしている入居者に、「いつもありがとうございます、助かります」と職員の暖かな声かけがあった。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護職員が先に言うのではなく 利用者様が思いや希望を言い 自己決定できるように待つ 傾聴の姿勢で対応するように努めている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースで一日を過ごせるように支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな洋服や髪形を自分で選択され不十分なところは 声かけて支援している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今日の食事のメニューを黒板に書いている 利用者の各人に合わせて 嚥下状態により刻みやミキサー食などで対応している	炊飯はするが、3食とも法人厨房で調理された食事が配食され、献立に関するアンケートでは、今回パン食を希望している。声かけや見守りで食事を支援し、正月や敬老会、誕生会では、おせちなどの行事食やケーキを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分や食べられた量を記録し把握している またその方の状態や病状に合わせた必要量を主治医等の医療連携により把握して対応に努めている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	困難な方には介助している 出来る方は 後で口腔内観察をし 磨き残しや汚れの確認をしている 訪問歯科診療にて 歯科医指導の下に 歯科衛生士より 口腔ケアの仕方やアドバイスを受けて 文書や図解して頂いて 洗面所付近に掲示している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員同士の声かけや排泄のチェック表で確認して 排泄のパターンを把握して、利用者様に声かけ誘導し 失禁などが少なくなるように努めている	排泄が自立している場合でも、トイレ間隔が長くなったりすると、さりげなく声掛けしている。排泄支援に抵抗ある場合は声かけやタイミングを見計らい、居室でのポータブルトイレの活用や同じ場所のトイレ使用を支援し、居室での放便に対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘しないように水分量の確保や状態報告をして 主治医相談によりの確な下剤服用等の処方をして頂いている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者様の状態に合わせた入浴介助は実施しているが 現状では 介護職員不足の為 希望に合わせたり 適格な入浴回数を得ることが難しい	週3回程度の入浴を支援しているが、失禁のある場合は毎日入浴を支援している。本人の希望でシャワー浴したり、自前のシャンプーを使用したり、同性の介助希望など応じ、楽しんで入浴できるように支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の性格や体調、生活のペースに合わせて 昼寝や休息できるように配慮 声かけ支援している 夜間は 寝具や照明など安心して休んで頂けるよう 考慮し対応している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医よりの薬の処方や薬剤師より薬が届いた時に 薬剤情報を確認し また薬の変更等も併せて説明を聞き 口頭や申し送りノートやチャットにて正確に職員が 周知、共有できるように努めている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除機をかけたり お部屋の拭き掃除をしたり したいことをして頂き 体調などを見て 声かけしてできない時は支援している コーヒーがお好きな方は適時に 飲めるように提供や お湯の準備など配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	建物の周りの散歩や 目の前のスーパーなどへ好みの食料品を買いに行かれたり希望される時は 状況に応じて 職員が同行し対応している	家族の支援で、受診や外食をしたり、孫の結婚式に参加したり、正月に帰宅された入居者もある。日頃は職員と近隣のスーパーに買い物に出かけたり、入居者の買い物に同行している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物など 希望される方はご家族のご了承も得て お金を持たれ 職員と一緒にもしくは見守りにて買い物支援をしている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される時は電話をかけた等取次ぎをしている 手紙など書かれないときは 封書やハガキを準備して支援している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓には遮光性のカーテンがあり 眩しすぎない様にしたり 気温に合うよう 室内は適温に管理している 窓からは桜や草花がみられるように植えられていて季節を感じられるように工夫されている	玄関の靴箱の上には鏡餅や季節の花が活けられ、壁に入居者の笑顔の写真が可愛い壁紙に掲載されている。エレベーターが設置され、1～2階に各ユニットが開所している。共用空間の広い窓から中庭の池で泳ぐ鯉や2階の干した洗濯物が見え、壁には入居者の初春の願い事を掲示している。事務コーナー前のソファで寛ぐ入居者もある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の廊下に長椅子を置いて 自由に座ったり 他の利用者様や職員と会話を楽しんだり ぼんやりと過ごして頂いたりしている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やタンスや寝具等 使い慣れた生活用品を居室に使用して頂いている	持参した 仏壇やタンスが置かれた畳敷の居室を掃除機をかけたり、拭き掃除をする入居者もある。ベッド下には家族が持参した暖房も兼ねたクッション性のある敷物が置かれたり、手作りのフラワー作品が並べられた居室もあるなど、其々居心地良い居室作りを支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有の場所にはわかりやすく 表示したり 段差を解消したり 手すりやエレベーターなど設置している		